

# 集合住宅の空き住戸を活用した高齢者の生活支援拠点に関する研究

## Study on the Bases Supporting Life of Elderly that Utilized Vacant Room of Public Housing Development

室崎千重　村井裕樹　橋詰　努  
MUROSAKI Chie, MURAI Hiroki, HASHIZUME Tsutomu

### キーワード：

高齢者、居住継続、生活支援、空き住戸

### Keyword:

Elderly, Stable Living, Support of Life,  
Vacant Room

### Abstract:

The community in housing development is declining because of an increase of elderly and an increase of one-person household. Various supports are needed so that elderly keeps living in the region. This paper is study that possibility of the bases supporting life of elderly, where is located in near their home.

Investigation objects are nine cases where the senior citizen is supported in the bases that utilized vacant room of public housing development in KOBE. The main result that we obtained is as follows. 1) When there is the bases in public housing development, elderly residents feel secure. 2) New problems of the community are found out by the base's staff. 3) The base's staff can know resident's relation more clearly.

### 1 はじめに

都市部の住宅団地では、団塊世代入居者の高齢化が急速に進み、高齢化率が40%を超える団地も現れている。また、高齢者の一人暮らし・夫婦のみ世帯も年々増加を続けている。高齢化が一斉に進行すると、コミュニティ機能が低下し、見守り体制の構築や地域での新たな共助コミュニティの形成等が必要となる。

2000年度から始まった介護保険制度は、必要な生

活支援の内容に保険の適用外のものもあるなど限界もあり、これのみで十分な支援が可能とは言えない。同時に、コミュニティへの支援も必要である。

平成20年度より厚生労働省と国土交通省は、「安心住空間創出プロジェクト」を立ち上げ、公的賃貸住宅団地内の空地や建物の空きスペースに介護施設や孤立予防の拠点の設置を進めるとしている。高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるための課題に対応しようとする支援施策や、整備が進められ、下地は整えられつつある。

これらの施策が有効に働くためには、拠点づくりを進める上での事前の問題予測と課題の把握が求められる。本研究は、現在進められつつある施策に関連し、公営住宅の空き住戸を活用した神戸市内の先進事例研究を行うことで、この課題に応えようとするものである。身近な場所に支援拠点が出来ることで、新たに担うことのできる役割および住戸を活用する利点・欠点を整理し、今後の拠点整備への課題を明らかにすることを目的とする。

### 2 高齢者自立支援ひろば事業<sup>1)</sup>

兵庫県は、平成18年度より、超高齢社会を見据えた先導的な取り組みとして、高齢者の自立を支援する拠点として「高齢者自立支援ひろば」を順次開設している。

これは、これまでの高齢者世帯生活援助員(SCS=Senior citizen supporter)<sup>注1)</sup>による支援者個人による巡回型の見守りを中心とする支援システムから、社会福祉法人やNPO法人等が自治会等と連携して、組織的で専門性の高い常駐型の見守りと多様なサービスを提供する地域主体の新しい支援システムへの移行を進めようとするものである。SCSは、高齢者自立支援ひろばの開設に合わせて、順次、縮小され

る予定である。

## 2.1 高齢者自立支援ひろばの4つの機能

高齢者自立支援ひろばの役割は、以下の4つの機能を担うこととされている。

### (1) 見守り機能

高齢者自立支援ひろばを置く住宅の常駐型見守り、近隣の災害復興公営住宅等への巡回型見守り、緊急時や各種相談への対応

### (2) 健康づくり機能

ミニデイサービス、会食サービス、栄養指導教室等や趣味の講座などの生きがいづくり事業

### (3) コミュニティ支援機能

入居者間、入居者と地域との交流事業やコミュニティづくりのサポート

### (4) 支援者のプラットホームの場

高齢者や高齢者支援事業に係る情報交換の場、高齢者に向けた情報発信の場、高齢者や地域住民の参画の場

## 2.2 設置場所と設置状況

設置場所は、災害復興公営住宅の空き住戸やコミュニティプラザ等である。運営は、各市から市区社会福祉協議会、社会福祉法人等へ委託されている。40箇所の開設が目標とされており、平成21年2月末で24箇所が開設されている。各市の開設状況を表1に示す。

表1 高齢者自立支援ひろばの開設状況<sup>2)</sup>  
Table.1 Number of the bases supporting life of elderly

市	開設数	運営団体	設置場所
神戸市	13(3)	地域包括支援センターの運営法人	空き住戸・コミュニティプラザ・プレハブ
尼崎市	2(2)	市直営	空き住戸
西宮市	2	西宮市社会福祉協議会	空き住戸・福祉施設
芦屋市	1	株式会社アスクケア	福祉施設
伊丹市	1	市直営	空き住戸
宝塚市	4(1)	宝塚市社会福祉協議会	コミュニティープラザ・福祉施設
三田市	1	三田市社会福祉協議会	福祉施設
淡路市	1	淡路市社会福祉協議会	福祉施設
計	24(6)		

平成21年2月末、( )は平成21年度の開設数

## 3 調査の概要

調査対象は、神戸市が公営住宅内に開設した高齢者自立支援ひろばのうち、活動開始より1年以上が経過している全9箇所とする。このうちの空き住戸を用いたものが7箇所、集会所を用いたものが2箇所である。集会所を用いた事例は、空き住戸を活用した場合と比較して相違点があるか考察するため調査対象に加えている。

神戸市の事例を対象とする理由は、空き住宅を用いた事例が複数存在し、同じシステムの中で事例の比較が可能なためである。また、空き住戸を活用した常駐型の高齢者支援の試みは全国初であり、先進的な事例である<sup>3)</sup>。

### 3.1 神戸市の高齢者自立支援ひろばのしくみ

神戸市では、地域包括支援センター<sup>注2)</sup>から高齢者自立支援ひろば（神戸市での呼称は、“あんしんすこやかルーム”）へ、同センター職員を派遣し、地域包括支援センターと連携したプランチ的な役割を担う場所として、高齢者自立支援ひろばが位置づけられている。このため、地域包括支援センターを運営する同じ法人に、高齢者自立支援ひろばの運営も委託されている。

地域包括支援センターが高齢者自立支援ひろばのバックにあるため、緊急時の対応、夜間や拠点にスタッフが不在時の連絡対応（電話はセンターへ転送される）、センター内の各専門職種からの助言・指導、各種事業の協力など支援体制が整っている。

神戸市の高齢者自立支援ひろばの運営日は、週3日10時～16時となっており、運営曜日は各運営者ごとに決めている。

### 3.2 調査対象の概要

調査対象とするあんしんすこやかセンター（以下、ルーム）9箇所は、神戸市の全9行政区に1つずつ存在している（神戸市が行政区に1箇所ずつ先行して設置したため）。運営法人は全て異なる。開設が最も早いルームは、2006年12月に開設されており、2年以上が経過している。調査対象ルームの概要を、図1～3に示す。

ルームの存在する公営住宅の高齢化率が40%を超えているものが、9事例中5事例存在し、高齢者が集中して居住している団地が多い。また、どの公営住宅も高齢者の1/3程度が一人暮らしとなっている。

住宅団地の規模は、2棟・住戸数135戸の神戸市

當本山第三住宅（東灘区）から13棟・878戸の神戸市営房王子住宅（長田区）まであり、構成する住棟数と戸数にはバラつきがある。

ルームとして使用している場所は、7箇所が空き戸、2箇所が集会所を利用している。このうち、集会所利用の1箇所（あんしんすこやかルームルネ）は、ルームの専有拠点が確保できなかったため、週に3日間の活動日のみ集会所に使用願いを出して活動している。使用戸の規模は42m<sup>2</sup>～58m<sup>2</sup>程度、間取りは2DK～3DKである。

### 3.3 ヒアリング調査の概要

各ルームを訪問し、スタッフに対して表2に示す質問項目について1.5～2時間のヒアリング調査を行なった。また、ルームの現状の使い方を調査者が家具を含めて記録した。訪問調査は9箇所とも2009年3月に実施した。

表2 ヒアリング調査項目  
Table.2 Question for questionnaire

運営体制	スタッフ人数・体制 スタッフの専門・SCS経験 運営日 必ずルームにいる日時の有無
活動内容	実施場所・実施頻度・参加者の属性
見守り対象者	人数・常駐、巡回の別・ イベントへの参加の有無 拠点への来訪の有無
利用状況	ルームへの来訪者数 相談件数・内容 来訪者の居住地
団地内に常駐することによる変化	常駐することによる効果と課題 団地内のルームの必要性 住宅を利用する利点・欠点
拠点住戸について（現状・要望）	室内の使い方（間取り・家具配置） 活動内容と空間の関係 住棟内での位置について
周辺地域との関係	想定する守備範囲エリア 活動を担う地域人材の有無 地域人材・資源とのネットワーク
課題	抱えている課題とこれからの課題

## 4 調査結果

神戸市のルーム9事例について項目ごとに見る。調査結果は図1～図3の中に一部掲載している。

### 4.1 ルームの運営体制と活動内容

#### (1) スタッフ人数と体制

専属スタッフが1名のルームが6事例である。専属スタッフ2名の3事例のうち、1事例は交替制で1人ずつ勤務のため、2人体制でルーム内で活動するのは2事例である。住宅団地規模にはかなり差があるが、スタッフ数は同程度であり、団地規模や単身高齢者人数とスタッフ数に対応は見られない。現在、常駐型の見守り人数をみると、最小5名～最大37名とルームごとに幅がある。

#### (2) 常駐日時

運営日は週3日であるが、見守り対象者宅への訪問を行なうと不在時間が発生する。9事例中6事例は、拠点にいる時間を「午前中は拠点内にいて、午後からは見守り訪問で不在時あり」というように、必ず在室する時間帯などのルールを決めている。在室か否かが玄関前まで訪ねてこないとわかりにくい為、訪問する住民への配慮がされている。残り3事例は、時間中は在室し、10時以前か16時以降に訪問に出ていている1事例およびスタッフ2人体制のためどちらかが常に在室する2事例である。

#### (3) 活動内容

各ルームとともに、見守り訪問・相談・緊急対応は共通の活動内容である。その他は、各ルームスタッフが独自に工夫をしながら行事を行なっており、内容や頻度など様々である。その中で多く取り組まれている行事は、茶話会（ふれあい喫茶）、健康体操、映画会である。

拠点とする住戸を定期的に行事で使用しているところと、戸戸が狭いなどの理由から集会所を主に利用しているところがある。

住戸の設備を活かした活動としては、一人暮らしの料理教室がある。また、映画会は集会所で行ない、洋画など特定の人が興味のあるものは住戸内でビデオ鑑賞とするなど、目的や参加人数によって使い分けている事例もみられた。

### 4.2 利用状況

#### (1) ルーム訪問件数とその目的

ルーム訪問件数は、拠点での行事開催の有無により異なり、多いところは月に約100人以上が訪れている。少ないところでも月に5～10名は訪れる住民が存在している。行事のない日に、少し立ち寄っておしゃべりをしに来る住民がどこのルームでも存在している。また、見守り対象者がルームに訪れることがあり、訪問を待つだけではない、双方向の関

係が生まれている。

## (2) 相談件数と内容

相談件数は、月3件程度というルームが多いが、多いルームでは月40件程度である。件数は、相談内容ごとに集計されているため、1回の訪問で複数カウントされていることもある。相談内容は、介護保険に関することが最も多い。その他、行政の書類手続きについて、あの人が心配という近隣住民からの情報、近隣の苦情まで寄せられる。

## (3) 来訪者の居住地

どのルームにおいても、大半がルームのある住宅団地内の人である。

## 4.3 住宅団地内に常駐する効果と課題

### (1) 住宅団地内に常駐することによる効果

巡回型の見守りから、常駐型に移行したことで、新たに見えてきたこと、効果があったと感じることとして、以下が挙げられた。

- ・ルームの行き帰りに住民さんに会う機会増加
- ・地域のネットワークから漏れている人を発見
- ・ネットワークのない人の相談場所、来れる場所
- ・住民の友人関係や趣味などが見えるようになる
- ・地域からの情報がすぐに入る
- ・地域内では話にくいことを話せる場所が出来た
- ・高齢者の出かける先が出来た
- ・住民から顔を見せに寄ってくれる
- ・住民ボランティアの抱える不安が軽減された
- ・地域包括支援センターが身近なものになる
- ・いざという時に頼る場所が出来たので、住民は安心感がある

### (2) 常駐することによる課題

常駐することによる課題として、以下の意見が挙げられた。

- ・1人体制の場合、休めない
- ・巡回型の見守り対象者も担当している場合、他地域へまわる距離が遠い
- ・住民が気軽に来てくれる半面、住民トラブルの相談なども寄せられる
- ・自治会が行事などに対して依存傾向を持つ
- ・地域包括センターとの情報共有がしにくい（センター内にいると自然と情報が入手できた）

### (3) 住宅を利用する利点・欠点

住宅を利用する利点としては、住民の自宅から近いので足の悪い人でも来られること、緊急時にもすぐに対応できること、部屋着のままでも来ることができる気軽さ、少人数を相手にするなら規模として使い勝手がよい、家族が少し用事のある短時間の間、

高齢者をルームで預かるなどの柔軟な対応も可能、などが挙げられた。

住宅を利用する欠点としては、部屋数が少ないのと相談者が重なった時に待つところがない、音が響くので大きな音や音ができる行事をやりにくい、部屋の間に壁があるため行事をやるには狭い、玄関扉を開けるまで中の様子が見えないので入りにくいなどの物理的な問題、訪ねて来る際に地域の人の目が気になる、あの人が来ていると嫌などのもともとの近隣関係の影響などが挙げられた。

### (4) 団地内のルームの必要性

実際に活動するスタッフは、「必要性がある」と感じている。理由としては、高齢化で自治会が機能しなくなってしまっておりコミュニティ支援が必要、気軽に相談できる場所が被支援者にも支援者にも必要、本人が来ることができる近さが必要、別の場所から来る第三者が地域には必要、などが挙げられた。

## 4.4 拠点住戸の使い方

### (1) ルーム内の備品

ルーム内の備品は、開設時に神戸市より購入されている。空き住戸活用型の拠点に、共通で置かれている備品としては、机・イス・液晶テレビ、冷蔵庫、電子レンジ、ホワイトボード、パンフレットスタンダード、車いす、ポット、事務書類棚、ノートパソコン、プリンターである。

### (2) 空間の使い方

空き住戸を用いている7事例についてみる。部屋の間取りおよび使い方については、図1～図3に平面図を掲載している。事務室あるいは事務スペースと、活動・相談に使う部屋を設けている。1室を事務室として使用しているのは5事例、残りはダイニング部分を使用する1事例、住戸内を改修してワンルーム化している1事例である。

間取りとして、和室を二間続きで使用できるのは2事例のみである。和室の間に壁や押入れがあるものが多く、6畳ずつに空間が分離されると狭く、この中のみで行事をするのは難しくなる。

住戸内の壁を全て取り払う改修を行なっているあんしんすこやかルームあじさいは、一体として利用できる面積が広いためか、ルーム内でふれあい喫茶や太極拳などの多様な活動を行なっている。

和室間の壁を取り払って、二間続きとする程度の改修を行なえば、ルーム内の活動の幅も広げられる可能性がある。

1	あんしんすこやかルーム コスモス（須磨区）	神戸市営古川住宅 住戸数：272戸（2棟）	住宅の高齢化率 51.6%・220人（単身高齢者世帯：86世帯） 開設日 2006年12月12日 運営日 火・木・土の10時～16時 スタッフ数 2名（女性） 常駐型見守り 10名（行事がある時の声かけは30人程度） 活動内容 *: 拠点住宅内で実施活動 見守り訪問・相談★・緊急対応・支援者連絡会★ 茶話会・男性の麻雀会★ ルーム訪問件数 のべ28人（09年02月実績、月により変動） 相談件数 10件程度／月（古川住宅の人が大半） 常駐による効果 ・行き帰りに住民さんに会う回数増える ・いざという時に頼れる安心感 ・地域内で話にくいことを話せる場所 住宅利用の利点・欠点 利点：近い場所にある 欠点：現状の場所がわかりにくい 地域包括センターとの情報共有がしにくい
2	あんしんすこやかルーム 中野ひろば（東灘区）	神戸市営本山第三住宅 住戸数：135戸（2棟）	住宅の高齢化率 50.4%・117人（単身高齢者世帯：45世帯） 開設日 2006年12月25日 運営日 月・水・金の10時～16時 スタッフ数 1名（男性） 常駐型見守り 30名+暫定見守り7名 活動内容 *: 拠点住宅内で実施活動 見守り訪問・相談★・緊急対応・支援者連絡会★ 健康体操／脳トレ体操・映画会・茶話会・ 健康相談・ビデオ鑑賞★ ルーム訪問件数 実人数5人程度（住宅内、全て男性） 相談件数 3件程度／年 常駐による効果 ・いざという時に頼れる安心感 ・高齢者が出かける先ができた（行事など） ・緊急対応ができる 住宅利用の利点・欠点 利点：短時間おばあちゃんをあずかることが可能 欠点：訪ねてくる際に地域の人の目が気になる 中が見えないので、訪問に不安感じる
3	あんしんすこやかルーム ゆめの（兵庫区）	神戸市営夢野住宅 住戸数：238戸（8棟）	住宅の高齢化率 47.1%・201人（単身高齢者世帯：66世帯） 開設日 2007年2月19日 運営日 月・水・金の10時～16時 スタッフ数 1名（女性） 常駐型見守り 5名程度（誰の見守りもない人） 活動内容 *: 拠点住宅内で実施活動 見守り訪問・相談★・緊急対応・支援者連絡会★ 季節行事（節分、七夕等）★・映画会・茶話会・ 健康体操・1人暮らしの料理会★ ルーム訪問件数 のべ11人（09年02月実績） 相談件数 10件程度／月 常駐による効果 ・住民にとって敷居が低く、身近に感じられる ・行き帰りなど住民さんに会う回数増加 ・地域内の情報がすぐに入ってくる 住宅利用の利点・欠点 利点：こじんまりした人数を対象とするなら 使いやすい。お茶もすぐ入れやすい。 欠点：間の壁がなく、部屋が広く使いたい

図1 あんしんすこやかルームの概要－その1  
Fig.1 Outline of the bases supporting life of elderly-1

ヒアリング調査年月：2009年3月

4	あんしんすこやかルーム ひまわり（北区）	兵庫県営鹿の子台 南鉄筋住宅 住戸数：150戸（5棟）	住宅の高齢化率 23.9%・77人（単身高齢者世帯：32世帯） 開設日 2007年2月26日 運営日 月・水・金の10時～16時 スタッフ数 1名（女性） 常駐型見守り 33名 活動内容 *: 拠点住宅内で実施活動 見守り訪問・相談★・緊急対応・移動相談★ ひまわりクラブ（ルーム行事）★・ふれあい喫茶打合★ ルーム訪問件数 のべ10人程度／週（実人数は5名程度） 相談件数 2～3件程度／月（同住宅の人が大半） 常駐による効果 ・住民がラティヤさんの不安感も解消される ・住民との距離が近くなり、情報が直に入る ・住民に安心感が生まれる ・集まれる場が出来て、住民の繋がり増えた 住宅利用の利点・欠点 利点：迅速な対応が可能 欠点：身近な存在になった分、住民トラブルの相談が来る、自治会行事もルームに依存傾向
5	あんしんすこやかルーム あじさい（垂水区）	神戸市営東多聞台住宅 住戸数：776戸（29棟）	住宅の高齢化率 30.4%・364人（単身高齢者世帯：118世帯） 開設日 2007年10月5日 運営日 月・水・金の10時～16時 スタッフ数 2名（男性1・女性1/1日交代） 常駐型見守り 20名 活動内容 *: 拠点住宅内で実施活動 見守り訪問・相談★・緊急対応・健康の会★ ふれあい喫茶★・栄養教室★・太極拳クラブ★ 映写会（支援センター主催） ルーム訪問件数 のべ122人（09年02月実績、月により変動） 相談件数 3件程度／月（住宅以外の人もいる） 常駐による効果 ・住民の友人の繋がりや趣味が見える ・住民から、元気にしているよ、と寄ってくれる ・支援センターが身近なものになる。住民に安心感 住宅利用の利点・欠点 利点：特になし 欠点：音があまり出せない（音の出るイベントがやりにくい）
6	愛の園あんしんすこやか ルーム（長田区）	神戸市営房王子住宅 住戸数：878戸（13棟）	住宅の高齢化率 41.7%・615人（単身高齢者世帯：249世帯） 開設日 2007年10月23日 運営日 火・木・金の10時～16時 スタッフ数 1名（男性） 常駐型見守り 13名 活動内容 *: 拠点住宅内で実施活動 見守り訪問・相談★・緊急対応・支援者連絡会★ 健康体操・介護予防講習会 ルーム訪問件数 のべ25人／月程度 相談件数 40件程度／月（住宅の人） 常駐による効果 ・900近い世帯は把握できないので、各棟に協力者をつくる（現在7名）地域づくり 住宅利用の利点・欠点 利点：近くにあるので足が悪い人も来られる 欠点：中で活動するには狭い。鳩に苦労。 8階までは気軽に上がりかけてくれない

図2 あんしんすこやかルームの概要－その2  
Fig.2 Outline of the bases supporting life of elderly-2

7	あんしんすこやかルーム ありせ（西区）	兵庫県営伊川谷 高層鉄筋住宅 住戸数：367戸（2棟）	<p>住宅の高齢化率 31.7%・208人（単身高齢者世帯：100世帯）</p> <p>開設日 2007年12月24日</p> <p>運営日 月・水・金の10時～16時</p> <p>スタッフ数 1名（男性）</p> <p>常駐型見守り 37名</p> <p>活動内容 ★：拠点住宅内で実施活動 見守り訪問・相談★・緊急対応・支援者連絡会★ 茶話会（おしゃべりクラブ）★・介護保険説明会★ 健康講座（やってみようクラブ）★</p> <p>ルーム訪問件数 実人数40人程度（累積）</p> <p>相談件数 2～4件程度／月（同じ住宅内の人）</p> <p>常駐による効果 ・住民との関係が深くなり、情報が入ってくる ・自治会の動きがよく見えるようになった ・直接解決はできなくても、情報提供を行なえる ・住民に安心感</p> <p>住宅利用の利点・欠点 利点：いつでも来られる場所がある 欠点：スタッフとしては、特にない 相談者が重なった時の待ち場所がない</p>
8	あんしんすこやかルーム ルネ（中央区）	林市立横浜町・ 横浜第二住宅 住戸数：185戸（7棟）	<p>住宅の高齢化率 61.5%・123人（単身高齢者世帯：89世帯）</p> <p>開設日 2008年3月10日</p> <p>運営日 月・水・木の10時～16時</p> <p>スタッフ数 2名（女性）</p> <p>常駐型見守り 対象者を選定中</p> <p>活動内容 ★：拠点内で実施活動 相談★・緊急対応・支援者連絡会・コミュニティ会議★ 介護予防体操・音楽療法・認知症研修</p> <p>ルーム訪問件数 のべ7～8人／月（実人数5名程度）</p> <p>相談件数 15件程度／月（同じ住宅内の人）</p> <p>常駐による効果 ・地域から漏れている人が見えてきた ・いざという時に頼れる安心感 ・ネットワークのない人の相談場所になれた</p> <p>住宅内にある利点・欠点 利点：敷居が低く、気軽に来られる 欠点：住民同士の目があり、ここに来にくいこともある。入りやすさとプライバシーの関係</p>
9	ああんしんすこやかルーム ならないろ（灘区）	林市立新在家南町住宅 神戸市営新在家南住宅 住戸数：560戸（5棟）	<p>住宅の高齢化率 37.2%・374人（単身高齢者世帯：175世帯）</p> <p>開設日 2008年3月24日</p> <p>運営日 月・水・金の10時～16時</p> <p>スタッフ数 1名（女性）</p> <p>常駐型見守り 17名</p> <p>活動内容 ★：拠点内で実施活動 見守り訪問・相談★・緊急対応・ 友愛訪問員交流会★・物づくりバザーの会 健康教室・映画会</p> <p>ルーム訪問件数 のべ13～14人（実人数10人程度）</p> <p>相談件数 2～3件程度／月</p> <p>常駐による効果 ・一人暮らしの男性が問題である ・情報が早く入り、すぐ対応できる ・みんなと一緒に苦手な人が訪ねて来られる</p> <p>住宅内にある利点・欠点 利点：住宅内のは来やすい、モノをすぐ出せる 欠点：毎日特定の方ばかり来られると困る あのが来ていると嫌などの近隣関係</p>

図3 あんしんすこやかルームの概要－その3  
Fig.3 Outline of the bases supporting life of elderly-3

#### 4.5 抱える課題とこれからの課題

現状で抱えている課題としては、個人情報の壁がありうまく情報共有が出来ない、自治会があるところとないところがある、活動を手伝う住民さんがほとんどいない、などが挙げられた。

これから取り組みたい課題としては、男性にもっと来てもらえるようにする、ボランティアの発掘を行なう、少人数のコミュニティグループをたくさん創る、もっと参加者を増やしたい、地域のネットワークから漏れている人を少しづつ地域との関係を持つように取り持っていきたい、などが挙げられた。

### 5 おわりに

本研究において得られた結果を以下に示す。

#### (1) 常駐型の拠点が住宅団地内に出来た効果

- ・ルームへ立ち寄る高齢者や見守り対象者が存在しており、被支援者から訪ねて来ることで、双方向の関係性が生まれる。
- ・常駐することで、地域内の地縁関係がよく見えるようになり、ネットワークから漏れていた人が発見されるなど、地域の課題が見えるようになる。
- ・住宅団地内にあるため、敷居が低く気軽に訪れるやすい、体力がなくても近いので行くことが出来る、いつでも行けるなど、住民の安心感に繋がっている。

#### (2) 今後の課題

- ・高齢者の見守りやコミュニティ支援をきめ細やかに行なうためには、住宅団地の規模や単身高齢者世帯数とルームの配置やスタッフの数のバランスを検討する必要がある。

- ・ルームの活動を継続・発展していくためには、地域人材の参加が不可欠である。現状は地域人材が不在のところも多く、人材発掘が必要である。

### 謝辞

お忙しい中時間を割いてヒアリング調査にご協力いただきました高齢者自立支援ひろばのスタッフの皆さん、情報提供と調査へのご協力をいただきました神戸市介護保険課介護予防推進係の皆さんに、記して深い感謝の意を表します。

### 注釈

- 注1) 高齢世帯生活援助員（SCS）とは、災害復興公営住宅等に居住する高齢者等の安否確認や生活指導、相談対応を行うとともに、コミュニティづくりの支援を行なう役割で配置されている。概ね65歳以上の単身者を対象として、概ね1週間に1回の巡回訪問を実施している。2001年度より阪神・淡路大震災復興基金を財源として導入された。
- 注2) 地域包括支援センター：介護保険改正にともない2006年度から創設された。概ね中学校区に1ヶ所、市内75ヶ所設置。総合相談や介護予防、権利擁護、高齢者虐待に対応するため、社会福祉士、保健師等、主任介護支援専門員の3職種を配置する。神戸市はこの他に、独自に見守り推進員を配置している。

### 参考文献

- 1) 兵庫県庁 復興フォローアップ webpage  
[http://web.pref.hyogo.jp/wd34/wd34\\_000000030.html](http://web.pref.hyogo.jp/wd34/wd34_000000030.html) (2009年3月最終訪問)
- 2) 兵庫県高齢者自立支援専門委員会平成20年度報告書
- 3) 神戸新聞朝刊“高齢者見守り「派遣」から「常駐」へ公営住宅の住戸活用” 2006.12.07
- 4) 神戸市記者発表資料、保健福祉局介護保険課“神戸市・高齢者自立支援拠点「あんしんすこやかルーム」の開設” 2006.12.06